



都志見新聞

(医)医誠会都志見病院
<http://tsushima.jp>

発行部数 308部
 発行月 1, 4, 7, 10月
 発行人 都志見病院
 広報室

謹賀新年



新年あけましておめでとうございます。

旧年中は当院に格別のご厚情を賜り、誠に有難うございました。

昨年は「2025年問題」という、団塊の世代の方々が後期高齢者となることで社会保障費や人材の不足が深刻化する年としてクローズアップされ、国もさまざまな対策を講じてきました。そして、いよいよ本格的な高齢化社会となる2026年を迎えました。

現在、日本全体の65歳以上の高齢化率は29.3%ですが、萩の高齢化率は44.1%と圧倒的に高齢化が進んでおります。推定では2035年には萩の高齢化率は50%を超してしまうようです。

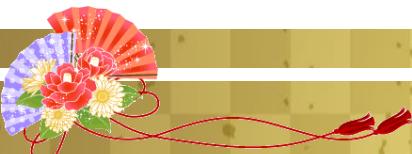
高齢化の進行に伴い、萩では「老老介護」の問題や「高齢者の単身世帯の増加」問題が顕著となっています。また、高齢者の増加に伴い認知症や肺炎・骨折・がん・脳血管疾患・心疾患などさまざまな病気を患つておられる患者さんが増加する一方で、医療従事者は不足（特に医師）しているという、医療ニーズと医療提供体制のアンバランスも萩の大きな問題となっています。皆様が、これから何十年先もこの住み慣れた萩の地で安心して暮らしていくよう、今後も引き続き萩医療圏の各病院や大学病院、さらには行政と密な連携をとり合って解決策を講じてまいる所存です。

話は変わりますが、今年は「丙午（ひのえうま）」と呼ばれる、60年に1度巡ってくる年となりました。丙午は、「陽」や「火」を意味する「丙」と「火の気が強まる時期」の象徴である「午」が重なる1年です。「火」の力が重なることで情熱や勢いが高まり、太陽のようにエネルギーが満ち溢れる年になると言われております。その丙午の年に恥じないよう、馬車馬のように「働いて働いて働いて働いて（高市政権のように！）」皆様に「都志見病院で診てもらって良かった！」と思っていただけるよう全職員一丸となって精進して参りますので、今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。

未筆となりましたが、新年が皆様にとって、ご多幸に満ちたかけがえのない1年となりますよう祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。



医局長 得能和久





新入医局員紹介 (令和7年11月付着任)



令和7年11月より **堀 友宏** 医師（整形外科）が当院常勤医として着任されました。
今回は堀医師の自己紹介も兼ねて色々なインタビューをしてみました♪



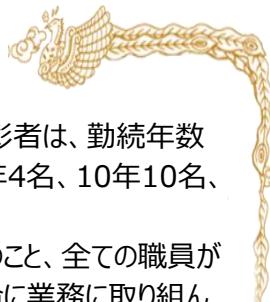
- ①趣味は？ ②尊敬する先生とその理由
③医師になろうと思ったきっかけは？ ④もし医師になっていなければ？

- ① ドライブ
② 本来引退する年齢であるにも関わらず、長年地域医療に従事し、
その住民に慕われているような超高齢の医師の方は、人格は勿論
ですが意欲や体力等、学ぶところが多く尊敬できると思います
③ 著名な医師が執筆した小説やエッセーなどを読んだこと。
④ 最近は日本や世界の歴史に興味があるので、その道に進んでも
面白いと思います。



整形外科
堀 友宏医師

令和7年度 永年勤続表彰者



令和7年度の永年勤続表彰者は、勤続年数40年1名、30年6名、20年4名、10年10名、計21名の授与となりました。

表彰された職員はもちろんのこと、全ての職員が医療従事者として日々懸命に業務に取り組んでおります。

これからも病院運営へのご理解、そして職員へのエールをよろしくお願い申し上げます。

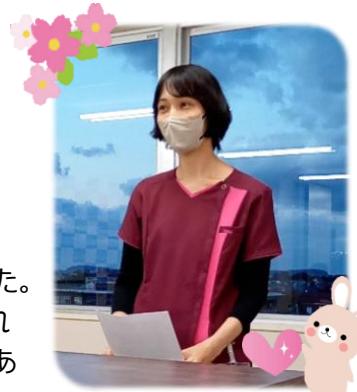


ケーススタディ発表会

11月18日にケーススタディ発表会を行いました。

「血液透析外来通院患者との関わりで学んだこと」

透析室 早田真奈美



このケーススタディを通して、がん併発の患者様と関わらせて頂きました。透析に通われている患者様の不安や伝えたいことを傾聴し、そしてそれに伴う知識をこれからのかの看護の中で少しづつ増やしていくことが大切であることを学びました。

これからも血液透析通院を安心して受けて頂けるよう、患者様の笑顔を引き出せる心ある看護を実践出来ることを目標に仕事を続けていきたいと思います。

ケーススタディまとめることは自分の看護を振り返り見直すことになります。時間をかけて文章化、可視化することが次の看護にもつながっていきます。



早田さん、お疲れ様でした。

第77回 長北医学会 学会発表報告

長北医学会は、萩北浦地区の医療従事者・福祉・行政の仕事に携わる方々の学会です。

当院からは3名の演者が代表して、学会発表しました。

【発表演題】

・『当院における腹腔鏡下体腔内吻合の取り組み』

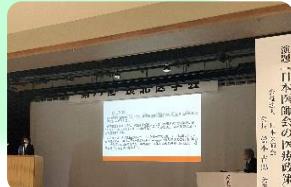
外科 濱永 友花里



・『受変電設備更新に伴う長時間

計画停電を経験して（臨床工学技士の対応）』

臨床工学技士 野村 知由樹



・『認知症中等度、重度の患者に対し個人因子（入院前の生活・趣味嗜好）

退院目標に焦点をあて、認知症ケア×コミュニティ音楽療法からADLはどう変化したか』

音楽療法士 小池 みなみ

長北医学会は萩北浦地区の医療従事者・福祉・行政の方々で構成される歴史ある学会です。報告会では様々な職種の方が発表され、幅広く深く学ぶことができました。発表者も、発表することで、臨床・仕事内容をまとめる機会を得ることができました。また発表後には各所より質問を頂き、また新たな視点で臨床することができます。この学会を機に、萩北浦の医療・福祉が住民の方々により有益なものとなるよう、臨床・研究に取り組みたいと思います。



救急救命士さんの就業前病院実習



救急救命士さんの就業前病院実習を当院にて実施いたしました。

今回、当院では「産婦人科領域の処置」を学んでいただきました。救急車の要請があつたらまずどんな情報をとるのか、自宅での分娩介助に備えてどのような心構えがいるのか、大切な母子の命を守るために非常事態に備えて搬送の連携をとつておくことの重要性など過去の事例を含んだ講義をしました。



その後分娩の映像を見て娩出のシミュレーションを頭の中でしっかりと整理してもらい、手作りの分娩モデルを用いて何度も繰り返して演習しました。もしも自宅や救急車内で分娩になつたら、「全力で赤ちゃんも、お母さんも僕たちが守ります」という気迫が伝わってきました。

萩市消防本部では高度救急業務を平成9年4月1日より開始しており、現在34名の救急救命士を配置、24時間体制で北浦圏域の皆さんの命を守るために日々知識、技術の向上に精進されています。そんな隊員のみなさんに守られている事に感謝します。

文責 5階病棟 助産師 金田妙子



第21回 出前講座

『学んでみよう！【がん】と【地域医療】』を開催いたしました

令和7年11月29日（土）10:00より旭マルチメディアセンターにて、**第21回出前講座『学んでみよう！【がん】と【地域医療】』を開催いたしました。**当日は地域の近隣の方々にお越しいただきました。

講演は、山本院長による「がんについて知ってみよう」、当院緩和ケア専従看護師による「緩和ケアってなんじゃろう？」、そして、患者サロン“だいだい”代表の岡野芳子様から「がんと地域医療」というテーマでお話をいただきました。

「がんについて知ってみよう」

院長 山本達人



山本院長の講演では、最近増加傾向にある自覚症状が出にくい肺臓がんについてのお話がありました。

また、当院では山口県内で最も多くの癌の薬物療法が行われていることも、お話の中で触れられました。



がん患者サロン代表の岡野芳子様からは、ご自身の活動の中での『マイナ救急』のメリット（マイナ保険証保持により、搬送時に救急隊が受診歴や服薬歴を迅速かつ正確に確認できること等）についての掛けや、萩市で生活していく上での地域医療の重要性などについてお話しして頂きました。

「がんと地域医療」

患者サロン“だいだい”代表 岡野芳子様



「緩和ケアってなんじゃろう？」

緩和ケア専従看護師 秋丸香織



当院緩和ケア専従の秋丸看護師からは、緩和ケアがどのようなものか丁寧な解説がされました。緩和ケアとは『心・身体のつらさを和らげるケア』で、がんと診断された時から受けることができる。がんと診断された際に様々な身体症状・精神症状などが現われ、心が揺れ動くこと。その揺れ動く心に寄り添い、一緒にどのように生活すればよいかを考えいくことなど、現場での知見をふまえた講演となりました。

（お問い合わせは、当院の地域連携室または緩和ケア専従看護師 秋丸まで）

参加された方々は真剣な眼差しで聴講され、皆さんの興味や関心の高さを実感できる貴重な時間となりました。

地域に根付いたがん健康教育の一環として、当院は今後も出前講座を継続して参ります。次回は、来年3月開催予定の市民公開講座(※)となります。皆様お誘い合わせのうえご参加下さい。

（※）開催日時・場所等の詳細は当院ホームページ/SNSで公開予定です。





No.31

『自然免疫』で元気に！—免疫力のおはなし—

リハビリテーション部 技士長 佛圓 祐基



日に日に寒くなってきていますが、体調の方はいかがでしょうか？

昨年の1月のリハビリコラムでは長時間同じ姿勢をとると筋肉が硬くなり体に不調を来す可能性があるというお話をさせていただきましたが、今回は免疫力についてお話ししたいと思います。

免疫とは、外部からの細菌・ウイルスなどの病原体の体への侵入を防いだり、体内で生じるがん細胞を攻撃して死滅させたりするなど病気から体を守る重要な機能を担っています。

免疫機能には「自然免疫」と「獲得免疫」の二つがあり、「自然免疫」は体内に侵入してきた外敵や体内に発生した異常な細胞に対しすぐに反応し攻撃していきます。「獲得免疫」は免疫細胞が一度戦った敵を記憶し、次に同じ敵が侵入してきた際に抗体を作り攻撃していきます。

この中で、生活習慣の改善で強化することができると言われているのが「自然免疫」です。体温の低下、不適切な食事、運動不足、ストレスなどで免疫機能は低下すると言われていますので、以下のことを注意しながら体をケアしてみることがよいと考えられます。

①《入浴して体を温めたり、体が冷えない様に気をつける》

体が冷えると一時的に免疫機能が下がると考えられており、感染症に罹りやすくなる恐れがあります。

②《バランスのいい食事をとる》

偏った食事にならないことと、ヨーグルトなどの乳酸菌や
昆布（きのこ）には免疫力を上げる物質があるとされています。

③《適度な運動を行う》

汗ばむ程度の運動（有酸素運動）で自律神経を整えたり、
ストレスを軽減させたり、体温を上げることがあります。



あとは諸説あるようですが、笑うことで免疫機能の一つであるNK（ナチュラルキラー）細胞が活性化されると言われています。運動や食事は制限のある方もいらっしゃると思われますので、主治医の先生に相談しながら無理のない範囲で行ってください。入浴に関しても長く入っているとのぼせる恐れがありますので注意してください。



都志見病院 看護部公式 インスタグラムを始めました！



ついに都志見病院インスタグラム公式アカウントを開設いたしました！

少しでも多くの方に知っていただきたい事、当院からのお知らせや、病院の様子など、色々な情報を更新していきます。

ぜひ、QRコードをカメラで撮影してアクセスしてみてくださいね。いいね・フォローをよろしくお願いします♪

